

地下に水を貯める。

大きな川のない喜界島での農業は、長年、水不足に苦しめられてきました。また戦前は、飲料水を汲む井戸水までも干上がる時は、百之台などにある水天宮に集まり、雨乞いの祭りを行っていました。

喜界島では降った雨は、すぐに地面のすき間の多いサンゴの石灰岩にしみこみ、地下水となってすぐに海に流れて出てしまいます。

そこで地下にダムを作って地下水をせき止めることにしました。

すき間の多い石灰岩に地下水を貯めるため、石灰岩の下にある水を通さない粘土の地層まで穴を掘り、その穴の中で水にセメントを加えたものと石灰岩を混ぜ、ダムの壁を作ります。

石灰岩のすき間にたまった地下水を、大きな井戸に集めて、ポンプでくみ上げ、畑に送っています。

このような仕組みのダムは、喜界島のほか沖永良部島や沖縄県の宮古島などにあります。

